

市手工芸協会から市文化財団に布マスクの寄贈 文化活動の再開を願って

5月14日、宝塚市手工芸協会（齊藤美和子会長）より、この度の新型コロナウイルス感染拡大により自粛を余儀なくされている文化活動の再開を願って「手作り布マスク」を30枚、宝塚市文化財団に寄贈いただきました。

宝塚市手工芸協会は会員数20名から成り、協会員展や公募展の開催を通し、手工芸文化の振興を目的に活動されています。今年4月には、感染拡大によるマスク不足対策および巣ごもり生活中に手作りの楽しさに触れてほしいと、宝塚市文化財団と協働し、文化財団ホームページにて3種類の布マスクの作成方法と型紙を公開しました。（文化財団ホームページ内「手作りマスクの作り方～今、アートにできること。」<https://takarazuka-c.jp/event/arts006.html>）

新しい生活様式が提案される中、協会の活動を自粛しながらも、「今、できること」を協会員で話し合い、マスクを手作りして持ち寄ってくださいました。寄贈されたマスクは、色とりどりのハンカチやガーゼを使用してミシン縫いし、ゴムを通して仕上げたもの。齊藤会長は「文化活動が早く再開されることを願い、会員が心をこめて作りました。役立ててもらえれば嬉しい。」とコメント。

宝塚市文化財団では3月のほぼ全ての公演を中止とし、緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月10日より運営管理する3施設（宝塚ベガ・ホール、宝塚ソリオホール、宝塚文化創造館）を臨時休館としています。兵庫県の休業要請が一部の施設で5月16日より解除されたものの、多目的ホールや文化会館は依然休業要請が継続されています。

今後、休業要請が解除され、公演が再開できた暁には、宝塚市文化財団の主催公演に携わるレセプションボランティアに受付で着用してもらおうなど、マスクを活用していきます。



文化財団にマスクを寄贈した齊藤会長（左）



手工芸協会会員が作ったマスク30枚

お問い合わせ（公財）宝塚市文化財団（日曜休み） TEL:0797-85-8844 担当:三戸（俊）